まず哲学とは、「良い人生を送るためにはどうしたら良いのか？」と言う事を論理的（正しい筋道）に追求する学問です。

哲学と言う学問の中でも、「論理」そして「自分の事を良く知る事」と言う分野は重要視されています。論理的に物事を考える事が出来れば、良い人生を送るための、「より良い方法」を導き出す事が出来る確率が上がる。そして、何よりも、人生観や価値は十人十色。あなたと言う一人の人間にとって、「良い人生とは？」と言う事を追求する事が、良い人生を送るために一つの手段と言う事です。

さて、「就活をどのようにアプローチするか？」と言う方法は色々あると思いますが、まずは自己分析から始めるのが妥当ではないでしょうか？

自己分析を通して、自分を知る。「自分はどんな人間で、どんな生き方をしてきて、どんな価値観を持っていて、どんな長所や短所を持っているのか？」そして「どんな事が得意で、どんな事に情熱や興味を持っているのか？」と言うように、己を知る事をスタート地点とし、「自分と言う人間の強みを活かせる、もしくは情熱や興味を持てる業界？職種は？会社は？」「自分と言う人間の価値観に沿う企業文化を持った会社は？」と言うように、論理的に業界や企業分析を行う事が、内定率と就職後の満足率を高める一つの方法ではないでしょうか？

そして、ES、GD、面接を通して問われるわけです。「志望動機は何ですか？」「５年後、１０年後あなたはどうなっていると思いますか？」「長所と短所は何ですか」「学生時代に頑張った事は何ですか？」「社会人と学生の違いは何ですか？」「お仕事とはあんたにとって何ですか？」と。就活における、ほとんどの質問は「論理」と「己の理解」と試験している。「就活とは、哲学の試験である」と言っても過言ではないでしょう。

「ふ～ん…で！？就活とは哲学の試験である…だから何？その情報が何の役に立つの？」と言うあなた。まず今回の動画では、哲学と言う観点から就活を見て、自己分析から始めるべきと言う一つの方法をご紹介しましたが、もう一つご紹介したいのが、就活の成功確率を上げるための一つの手段として、「他人の哲学を勉強する」と言う事です。

有名な哲学者たちが考案した「良い人生を送るための生き方」を学ぶ事で、自己分析からES、面接に活かす事が出来るのではないかと仮説します。

例えば、フランスの哲学者モンテーニュは、グローバルな視点を持つ事が大切で人は外国に行くべきと言う哲学を持っていました。多様性や多角的な視点を養う事で、相手の視点から物事を見れるようになったり、思考の柔軟性が身に付く。そんな、モンテーニュの哲学を学んで「自分も賛同する」と言う意見や「これを留学した理由として話してみよう」と言うように、自己分析や面接等に哲学者達の知見を活かす事が出来るでしょう。

そして、勉強するべき哲学ですが、やはり古代の哲学者達の哲学の方が、時を経ても価値があると証明された論理と人生観ですので、お勧めは古代書です。特にストア主義関連をお勧め致します。欧米では最注目されている哲学で、日本の武士道にも通ずる哲学ですので、多くの日本人の哲学にも沿うのではないでしょうか？

中学生の頃に、本屋で手にした超訳ニーチェと言う一冊の本。中学生となるとミュウツーのように「自分とは何者なのか？」と言う事に苦悩する事が増えたがゆえ、哲学書に手を伸ばしたのでしょう。そして、就活と言う時期になって再び「自分とは…？」と言う事を問う日々に戻る。昔は出なかった答えですが、就活を通して、少しでもそれに近付く事が出来れば、ミュウツーとコピーポケモン達のように各々の旅路に旅立つ事が出来るようになるのかもしれません…